

平成 30 年度 第 1 回郡上市住民自治基本条例検証委員会 要録

日 時：平成 30 年 9 月 13 日（水） 19：30～20：50

場 所：郡上市総合文化センター2 階特別会議室

出席者：今井良幸（アドバイザー：中京大学総合政策学部准教授）

上村英二、中山紀子、小椋和子、山中佐代美、石神鋈、佐藤正彰、日置次郎

市長公室政策推進課：大野課長、和田課長補佐、前田主査

欠席者：高橋ゆき江、西脇将洋

1. 協議事項

（1）委員長・副委員長の選任について

委員へ委員長と副委員長の選任について諮った結果、事務局案の提示となり、下記のとおり案を提示し承認を得た。

委員長：上村英二 副委員長：中山紀子

（2）郡上市住民自治基本条例の周知について

事務局①：郡上市住民自治基本条例を周知するため、昨年度作成したパンフレットを用いて周知していきたい。そのためにパンフレットを自治会配布文書の少ない 10 月に各戸配布したい。また中学 3 年の公民の授業において 11 月に自治を扱うので配布を検討している。高校生についてもパンフレットを配布し周知を図りたい。NPO 団体及び市民活動団体については 11 月頃の市民協働センターのチラシと合わせて配布し、ボランティア組織についてはボランティア連絡協議会にて周知を行いたい。

委員①：高校については Good 郡上プロジェクトの打ち合わせの際に、パンフレットを求められたが、配るだけでは勿体無いので、先生から少し話をしてもらう必要がある。

委員②：パンフレットは高校でも関心があると先生から伺っている。授業に使うことができれば活用したいとのことであった。青少年育成の関係で「まめなかな」という新聞を作成しているが、郡上高校は私、郡上北高校はパンフレット制作を受注したエンジョイントの後藤さんが関連している。

委員①：中山さん、後藤さんと調整し高校生への周知を進めてほしい。

委員②：まめなかなの新聞の話をするときには社会教育課の此島にも参加してもらうのが良い。

委員⑦：自治会の各戸配布について、新聞社にも伝えると関心を持たれるのではないかな。

委員⑤：市の自治会連合会や地域協議会での説明も重要と思われる。

委員①：八幡地域についてはタイミングが合えば地区協議会にも呼びかけたらどうかと考える。

委員⑥：白鳥地域は 10 月 9 日に自治会長会が開かれる予定である。

委員①：中学校の先生にはどのように周知したらよいか。

委員②：中学校の社会科の教科研に諮るのはどうか。明宝中学校の立石先生や学校教育課へ相談するのが良い。

委員①：中学 3 年生のタイミングで毎年配布するとなると、毎年 430 部程度必要となる。

委員⑤：病院の待合室やイベント時に活用できると良いと考える。

事務局②：市内の公共施設に設置できると良い。

アドバイザー：市のホームページにパンフレットをそのまま載せると良い。またホームページの目立つところに掲載し、市のホームページを開くとすぐ確認できるような状態が理想である。

委員①：ホームページのトップ写真の場所に1ヵ月でもいいので掲載できると良い。

市で行われている会議に関する情報公開が少ないと思われる。また公開されている要録の内容が薄いことが気になる。庁内においても再度周知が必要である。

2. その他

(1) ブックレットの作成について

事務局②：住民自治基本条例のブックレット作成を検討している。ブックレットは住民自治の専門書のようなものを想定しているが、ブックレットの必要性等も含めご意見をいただきたい。

アドバイザー：ブックレット作成にあたり対象を誰に設定するかが重要である。住民自治に関心がある人向けの本になると思われる。例えば今後の市のまちづくり等を考えてる人への専門書であったり、次世代を担う人たちに向けての専門書等、何かしらの政策や仕組みとセットにすれば作成に意味はあると思われる。

委員①：地域協議会で地域づくりを考える上で参考になると良い。全戸配布でなくても良いと思われる。

委員⑦：郡上学でブックレットを用いて触れるのも良い。

委員②：ブックレットはどこの機関で作成をするのか。検証委員会にて作成していくのか。

委員①：あくまで検証委員会は条例の施行状況の確認と住民自治の推進が目的である。作成のアドバイスはできると思われる。

委員③：事例をたくさん掲載し、地域協議会や市民活動の手引きになると良い。また検証委員会の勉強資料になると良い。

委員①：魅力ある地域づくり補助金を申請する際に、ブックレットの読み込みを必須にするなどまちづくり関係の補助金申請者には理解を深める意味も含め読んでもらいたい。単位制となる高校において地域づくり的なカリキュラムがあれば使ってもらえる。また市の職員の教科書にもなりうる。

アドバイザー：新人職員の研修に住民自治は必須である。

委員⑤：シルバー大学において、話題としてパンフレットに触れたいと思う。類似しているまちづくり団体は多くあるので、関心を深めてもらうこともでき、専門的に学びたいと思う人への教科書としてブックレットが活用できるかもしれない。

委員④：地域協議会では課題解決のために動いているが、やりたいことを実現するまでには多くの課題がある。その課題解決のヒントになる参考書のようなブックレットがあると役に立つ。教科書的な内容ではなく、具体的な補助金の活用事例などを記載し、実践する人や団体への助けになると良い。

アドバイザー：議論の材料となるようなブックレットが良い。その議論がまちづくりに繋がると考える。ブックレットをどのような政策に用いるために作成するかを明確にすることができれば、検証委員会でも検証していきたい。

事務局②：ブックレットが政策的にどのような位置付けになるのか精査させていただく。

委員⑦：条例の項目ごとに解説や事例を提示できると良い。

委員①：一昨年から住民自治基本用例の周知と地域協議会を課題としてきた。地域協議会の状況を教えてもらえる場を作って欲しい。名城大学で開催された計画行政学会で、小規模多機能自治の代表者は代表性を担保されているのかが話題になった。

委員⑤：代表性の担保という意味では委員の選出に問題があるのではないか。地域協議会の代表は各種団体の推薦となっている。実行力のある組織づくりが必要である。

委員①：自治会長の任期が短いのも問題である。任期が長くないとまちづくり意識を持った人が自治会長にはならない。

委員⑥：自治会に女性が入って来れるような仕組みが必要でないか。白鳥町向小駄良の集会所の改修では女性の意見を聞く場を設けた。女性の負担を抑えて参加意識が出ると良い。

アドバイザー：地域協議会は条例にも載っており検証は必要である。地域協議会の状況を検証し、市の政策の材料としていただきたい。

3. 閉会